

令和5年度 京都府立東宇治高等学校学校経営計画（計画段階）
（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決しようとする人の育成をめざす。 そのような人を「みらいを明るくできる人」と定義し、その育成のために、生徒に次の姿勢を身に付けさせる。 (1) 挑戦する姿勢 (2) 周囲と関わる姿勢 (3) 努力し続ける姿勢	○1人1台タブレット端末の導入の実施初年度であり、個別最適な学びを具体化する開始の年度とした。引き続きICTを活用した授業の充実を一層推進するとともに、情報リテラシー、モラルを含む教育の推進も図ることが重要である。 ○観点別評価についても実施初年度であったが、観点別評価と評定について整理し、評価方法について一定の方向性が見い出せた。 ○学校行事の実施が普段通りになり、多くの生徒が一定の充実感を感じたことは評価できる。 ○コロナ禍における基本的な感染症対策が全教職員のもとで実施できた。 ○成人年齢の引き下げに対応する主権者教育の推進を図ることが必要である。 ○生徒のさらなる減少を控えた山城通学圏における東宇治高校の在り方について熟議し、本校の特色ある取組について中学生、保護者、地域に広く理解を促し、かつ在校生が充実感を持って学校生活を送るための教育活動に組織的に取り組むことが必要である。	中期経営目標に掲げた「みらいを明るくできる人」の育成、及び「3つの姿勢」の涵養のために、本年度は次の目標に重点を置く。 (1) 人権意識と社会性の涵養 日々の教育実践が、人としての基本を身に付け、互いの人格を尊重し、人権意識を備えた人材の育成の場であることを常に意識する。 (2) 授業改革 学習指導要領を踏まえ、「知識・技能の習得」を礎に、「自ら学ぼうとする力」や「知識を活用して問題を発見・解決する力」を育成するため、1人1台タブレット端末等のICT機器の活用を進めるとともに、観点別評価の実施により生徒の学習改善を図る。 (3) キャリア教育と進路指導 社会への貢献、社会とのかかわりを意識づけるキャリア教育を進めるとともに、高大接続改革などに対応した丁寧な進路指導を一人一人に行う。 (4) 外部機関との連携 大学や地元小中学校、地域の団体などとの連携を深め、グローバル社会・地域社会で活躍するための素養を醸成する。 (5) 総合的な探究の時間 「国際教育と地域連携をテーマとした探究学習」の研究をさらに推進し、「総合的な探究の時間」運営に注力する。 (6) 働き方改革 ICTを活用した教科・分掌等の業務内容の効率化や会議の精選を行い、教職員が生徒と向き合う時間を確保しつつ、ライフワークバランスを踏まえた働きがいのある職場環境を整える。

重点目標

<分掌・領域>

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
組織・運営	分掌間及び教科間の連携・協働の推進	本校の教育目標の実現に向け、各分掌部長及び教科主任が主たる調整役となって、関係する分掌及び教科と連携・協働し、効果的・効率的に業務を遂行することによる働き方改革の推進を図る。		
教務部	・ICTの利活用 ・観点別評価についての改善 ・働き方改革に伴う業務の見直しと精選	・タブレット端末が2学年となり、より一層授業や行事、部活動でも利活用が進められるようにする。特に公開授業を通してICTの利活用だけでなく、授業の改善を図れるようにする。 ・1年生、2年生と観点別評価が拡大され、観点と評価の関係についても、改善を図りながら、点検作業を減らす工夫を続ける。 ・あたり前に行っていた内容も、工夫を行い、対象、回数などを減少させる、または中止などを行う。		
総務企画部	・魅力的な広報活動の展開 ・地域に開かれた学校づくり	・Webページや学校説明会等、本校の魅力が伝わるものにするため、各分掌・教科・生徒会と協力する。 ・PTA・教育後援会の運営・活動を役員と協力して円滑に行う。 ・地域、保護者等に学校生活が伝わるように、Webページ、PTA広報誌等を活用する。		

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
生徒指導部	・部活動の活性化 ・学校行事(生徒指導部主管)の活性化 ・校則の見直し	・部活動の活性に向けて、生徒の所属部活動を随時把握し、入退部などの登録管理を徹底する。及び部活動ミーティング、部員清掃など部活動全体での取り組みの再開。 ・文化祭、体育祭(仮称)における生徒の充実度や満足度をより高いものとなる、取り組みにする。 ・校則の見直しについて、生徒、教員、保護者、地域の方々の意見を聞き進める。		
進路指導部	生徒が進路学習を通じて、社会との関わりを意識したキャリア形成を行い、希望進路実現に邁進する姿勢を涵養するために必要な支	・学年や状況に応じた進路学習を企画運営する。また、入試に対応できる学力を育成するために各種学力テストなどを活用できる環境を整え、教科、学年部との連携を図り東宇治高校が抱える課題を共有する。さらに、1・2年については、学習用端末を用いた新たなキャリア教育の方法について、情報収集や検討を進める。		
	生徒だけではなく教職員も高い人権意識を持つための啓発活動を行う。	・人権啓発活動の一環として人権教育及び研修などの企画運営を行う。特に、学習用端末を持つ学年が2学年となるため、このような状況下で必要となる人権教育及び研修について検討を進める。さらに、昨今、取り上げられている人権を意識した研修について検討を進める。		
保健部	生徒の心身の健康を守り、安心・安全な学校づくりを推進する。	・生徒の抱える心身の健康課題の多様化に対し、他分掌と連携を図りながら学校全体で組織的に対応する。 ・健康上配慮の必要な生徒や不登校傾向など様々な課題を持つ生徒に対する相談活動を充実させるとともに、健康課題の緊急性・必要性を見極め、カウンセリングを有効活用する。		
図書部	読書活動を通して生徒の情操を豊かにするとともに、広汎な知見や幅広い思考力・積極的な探究心を持った生徒を育てる。	・各教科と連携しながらメディアセンターとしての図書館運営を目指し、生徒・教職員の施設利用および図書の貸出を促進する。 ・生徒の積極的な探究活動が円滑に行えるよう、府立図書館等の相互貸借を活用し学習環境を整備する。 ・図書委員会等の活動を通して生徒に対する読書の啓蒙に努める。 ・図書館内での様々な企画・展示およびHPを活用しての広報活動に努め、「発信する図書館」を目指す。		
第1学年部	新しく高校生活を始めるにあたり、基本的な生活習慣や正しい身だしなみを身につけられるよう指導する。また、広い地域から集まった生徒たちが、お互いに相手の考えを受け入れ、人権を大切にする集団を育てる。	・遅刻指導・身だしなみ指導をしっかりとおこない、高校生としての好ましい生活習慣を身につけさせる。また、家庭での勉強時間を確保させ、学習習慣を身につけさせることで、高校での学習の基礎学力をつけさせる。 ・学校行事やクラス活動、総合的な探究の時間、授業などをとおして、自分と違う意見や価値観をもつ人と意見を交換する機会を増やし、お互いを受け入れ尊重しあう集団を育てる。また、学年集会や人権教育などをとおして人権意識を身につける。 ・情報モラルを養い、タブレットを適切に利用できるように指導する。また適切に学習にも活用できるように指導する。		
第2学年部	生活規律を確立させ、将来社会に貢献できる姿勢を伸長させる。自他の相互理解により、周囲と関わることができる力を培う。進路目標を具体化させ、主体的に課題を解決する姿勢を培う。	・日常の生活について、自分の行動や身なりを確認できるよう指導する。 ・教育活動全般において、他者を理解し、行動することを意識させる。 ・模試を活用し、進路目標を明確にさせる。また、進路実現のための学習計画について考える機会を作る。		
第3学年部	未来を見据え、目標までの道を描き、進む力を育成する。また、広い視野を持ち、積極的な交流を行うことで互いに刺激を味わう姿勢を培う。	・一人一人に寄り添った進路サポートの徹底 ・卒業生や外部講師による講演を活用し、目標を具現化する ・安易に妥協を選ばない指導 ・iPad未導入学年として、有効的なICT機器の活用 ・家庭学習習慣の確立 ・社会人としての言葉遣い・振る舞いを習慣づける		

事務部				
教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	
国 語	教育のICT化や新学習指導要領に対応できるよう、積極的な授業改善に取り組む。	・「考える力」の基礎となる漢字、語彙の学習指導を丁寧に行うとともに、文章を読み論理的に考える力や、自分の考えを適切な言葉を用いて他者に伝える力を養う。 ・ICT教育の具体的手法や効果的指導法を研究し、教員間での情報共有を図る。 ・学習指導要領の改訂による新科目の研究を深め、指導と評価の一体化を進める。		
地歴公民	授業を通して生徒の興味・関心を高め、生徒の主体的な学びにつなげる。 SDGsをはじめとする現代の諸課題について考察する態度を養う。 希望進路を実現させるための学力を育む。	・ICT・視聴覚教材を、効果的・発展的に活用し、生徒の主体的な学びを促進させる。 ・JICAエッセイコンテストに向け、公共の授業内でSDGsを取り扱い、賞を受賞する。 ・教科内での授業研究を実施し、各教員が授業改革を行う。 ・進学講習を実施し、進学希望者の希望進路を叶える。		

数 学	基礎的な数学の学力を確実に身につけさせ、学んだ知識を活用して問題を解決する力を養成する。	・毎授業の改善やテスト前の補充、小テストの実践などで基礎的な学力を確実に身につけさせる。 ・定期テストに知識を活用する問題を出題し、その対策を通して応用する力を身につけさせる。 ・ICTを活用した創造的な授業の実現を目指す。 ・新教育課程における授業の進め方・評価等の研究を深める。		
理 科	科学的な自然観や考え方を身につけ、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする生徒を育てる。	・ICT機器を積極的に活用し、生徒の理解を促進する方法について研究し、授業改革を実行する。特に、1,2年生においては、タブレットを効果的に活用した授業実践を行う。 ・実験やグループ活動の機会を積極的に設け、周囲と関わりながら他者と協議し、課題を解決する姿勢を身につけさせる。 ・観点別評価による、指導と評価の一体化を推進する。		
芸 術	芸術の幅広い諸活動を通して、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	・新型コロナウイルス感染拡大予防対策を心掛ける中で、表現力、鑑賞力を伸ばすために基礎基本となる技術の習得を重点的に行う。また、ICT機器の効果的な活用方法を工夫しながら、芸術科相互の実践研究の交流を充実させる。		
保健体育	『心』と『体』の調和のとれた生徒の育成。 健康の保持増進に必要な行動を自発的・自主的に実践する能力を身に付けさせる。	・感染症対策を万全にする中で、感染状況に配慮しつつ、柔軟に授業内容を設定して実施する。 ・スポーツやチーム活動を通して、規範意識の定着・良好な人間関係の育成を目指す。 ・保健で学習したことが実生活に活かせるよう指導する。 ・健康的な生活の基盤となる、基礎体力向上の重要性を認識させながら、バランスのとれた体力を養う。		
家 庭	実践的・体験的な学習活動を通して様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。	・「未来を明るくできる人」を育成するため、「持続可能な社会をつくる暮らしの担い手になる」をテーマに教科指導を行う。 ・家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫する。 ・ICTを活用し生徒の理解を促進させる。		
英 語	英語によるコミュニケーション能力を強化するための授業改善の取組を行うとともに、ICTを活用した授業を創意工夫する。	・全学年の4技能のテストを以下のとおり実施する。 ・リーディングテスト(初見)は年間4回以上 ・リスニングテスト、スピーキングテスト、ライティングテストは各々年間2回以上 ・本校生徒の実態に合った目標を設定し、目標達成を目指すとともに、自ら学習する姿勢を身につけさせる。 ・英語科教員間での研修や授業見学などを通して、より良い授業を考え、実践する。		
情 報	高度情報化社会における課題を認識し、情報機器を活用した問題解決の方法や情報モラルについて考えさせる。	・情報と社会について体系的・系統的に理解するとともに、情報と社会との関わりに関する課題を発見し、情報に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・情報活用能力の習得を目指して自ら学び、情報社会に主体的かつ協働的に参画し寄与する態度を養う。		
総合的な探究の時間	実社会や実生活と自己とのつながりから問いを設定し課題解決に取り組む中で、主体的に動き他者と関わる力を育成する。 新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。	・「国際教育」と「地域連携」を軸に、生徒の探究活動がPDCAとなるよう企画会議と担当者会議が中心となって指導を行う。 ・1,2年次の学習が、3年次の進路選択からの進路実現となるよう系統立てた実践を目指す。 ・「情報収集だけにならない」「つながる」「発信する」視点でのICT機器の活用を研究し、担当者間での情報共有を図る。 ・外部講師や大学等機関と連携をとり、学習内容に合わせた指導体制を確立する。		

学校運営協議会による評価	
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--